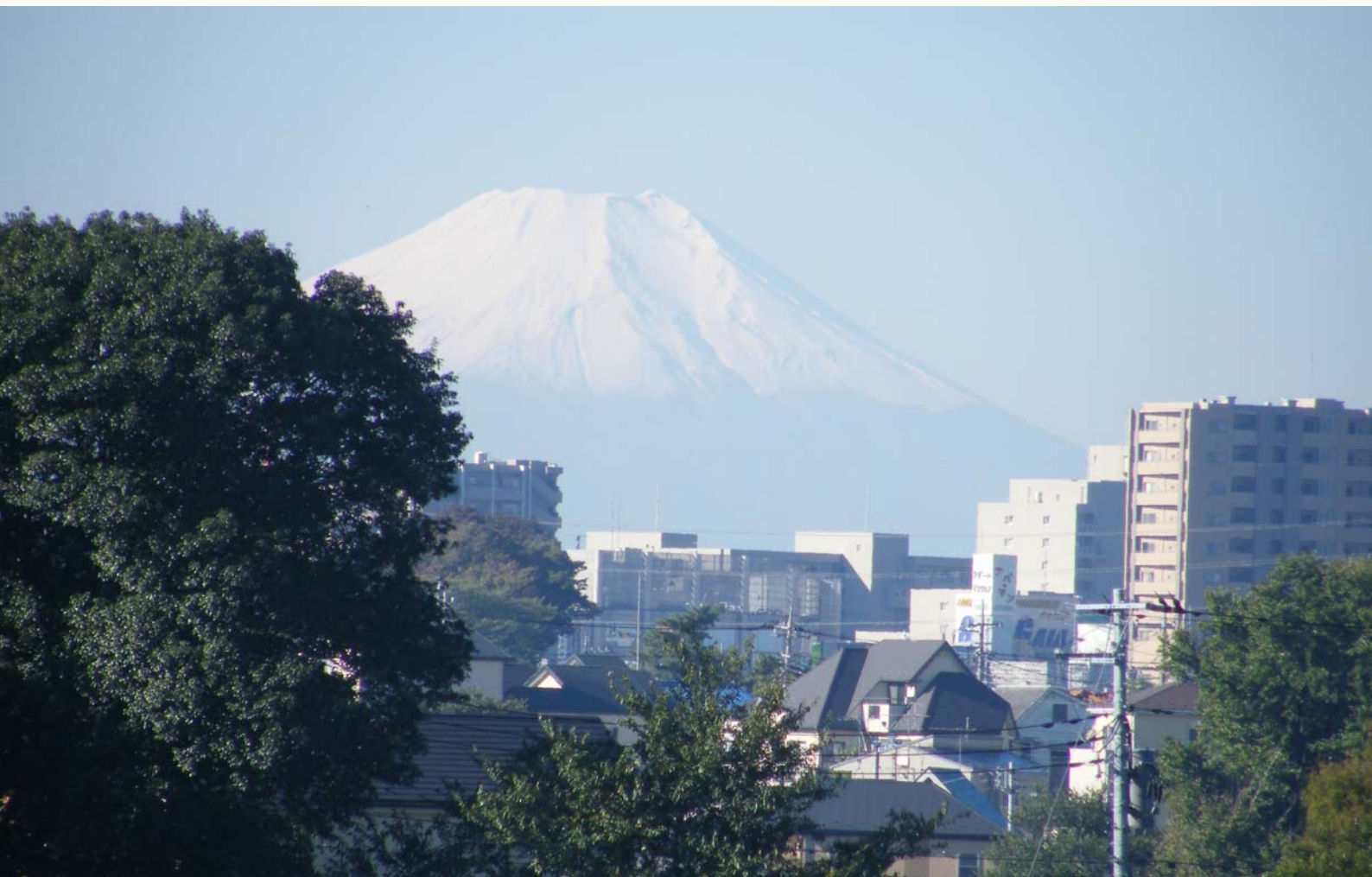




WAKO
Hospital

和光病院 だより

Vol . 2

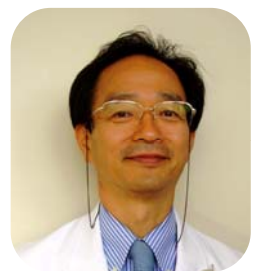


「和光病院屋上より見る富士山」

明けましておめでとうございます。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新年にあたって



院長 齋藤 正彦

明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ご存じのとおり、和光病院は、精神症状や行動上の問題が激しいために、ご自宅や施設ではケアできない患者さんの入院治療を目的として設立された精神科の病院です。しかしながら、設立以来、足かけ六年の間、病院の都合による転院や退院を要求しないということをもットーとして運用して来たため、入院当時に見られた激しい症状が消失した長期入院の患者さんが増えています。現在、和光病院には、精神症状や行動上の問題の激しい患者さんの他に、福祉施設でも介護可能な落ち着いた認知症の患者さん、認知症が進行して寝たきりになり、

精神医学的治療より身体ケアが必要な患者さんが混在しています。

同じ病棟に、異なる状況、異なるニーズを持った患者さんが混在するために、スタッフの看護、介護力が分断され体力、気力をすり切らせているのに、一方で、それぞれの患者さんには必要なケアが十分提供できないというジレンマに陥っております。老人病院の資源は、なんとと言っても「人」です。新しい年、和光病院は、職員の資質向上のための研修等を通じて、個々のパフォーマンスを向上するとともに、新たな職員を増員すべく努力を続けて参ります。ご家族の皆様方には、病院の設立目的、運営方針についてご理解いただき、国民みんなの資産である医療保険、介護保険のシステムを守るためのご協力をお願い申し上げます。



賀春 戊子



事務長 町野 譲

和光病院で迎える初めての新年となります。早いもので昨年3月に和光病院に転籍となり、事務長として就任して十ヶ月が経ちました。初めて経験することが多く、いろいろな事も突発的に起き、慌しく時間だけが過ぎていた気がしてなりません。本年は、和光病院としての業務・組織の改革、さらに4月には、二年毎の診療報酬の厳しい改定が予想されるため、じっくり腰をすえて問題に取り組む所存です。

患者さん・ご家族の皆様にご満足していただける病院となるよう、その為に職員の労働環境の改善にも努めていきます。

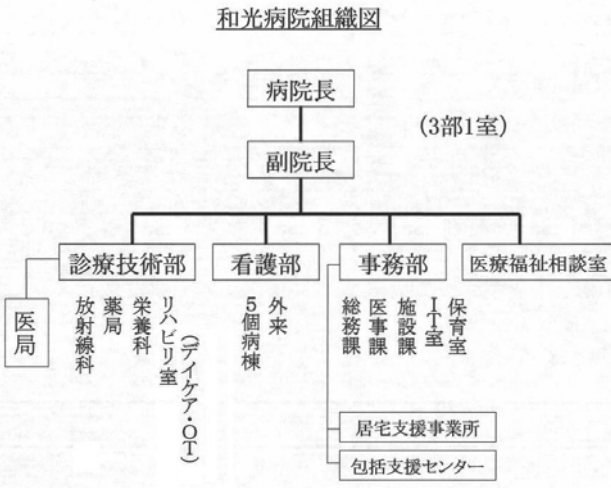
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



組織新体制について

副院長 白濱 龍興

「病院の組織と委員会について」
 当病院の組織は、病院長の下、診療技術部（浅見部長）、看護部（田代部長）、事務部（町野事務長）及び医療福祉相談室（栗原室長）の3部1室からなります（図参照）。そして各病棟に、病棟医長と介護主任を新設し、病棟医長、看護師長、看護主任、介護主任を中心として診療・看護・介護体制の密な連携を図り、病院全体



の医療体制のさらなる充実を目指しております。

委員会として「医療安全管理委員会」

（事故防止部会、事故調査部会、事故対処部会を持つ）を新編し、「感染対策委員会」「事故対策委員会」「防災会議」等と連携しながら医療安全管理について万全を期したいと思えます。さらに「ケア向上委員会」「教育委員会」を新たにづくり、患者サービスの向上と医療に関する教育を常に考慮し、その成果が患者さんに反映されるような体制作りをしてまいります。また院外の先生方をお迎えし、病院全般の評価を行う「第三者評価委員会」も発足させました。

リハビリ室を新設しました。

デイケアとOT室を一緒にしてリハビリ室が新編されました。患者さんの個性を尊重し、「全人的復権」を基本理念として日々リハビリに努めております。また、室員一同院内アクティビティの充実にも励んでおります。お気軽にお声かけください。

看護部新体制について

看護部長 田代 睦江

「思い新たに・・・」

明けましておめでとうございます。昨年は皆様方に一方ならぬ温かいご支援を賜り心から感謝申し上げます。



看護部ではケアの充実を図るために、昨年の9月から新体制をスタートさせました。平成14年の開院以来、初めて病棟師長・主任の異動を行い、介護主任を配置しました。それぞれの病棟が新しい顔ぶれになりました。病棟のエレベーター横に職員の顔写真を掲示してありますが、ちよつと緊張気味の職員や笑顔の職員など、写真だけでは皆様にお伝えできないのが、ケアの中身です。

認知症がすすんでもその方らしい穏やかな人生を送っていただけのような、温かいケアを提供していきたいと思えます。今年も宜しくお願い申し上げます。

2階病棟

明けましておめでとうございます。2階病棟です。医長・師長以下23名のスタッフで約60名の患者さんのケアをしています。当院で最初に開設した病棟で患者さんの平均在院日数も一番長い病棟です。患者さんが一日一日を安心して過ごしていただけるケアをモットーに日々工夫をしています。今年は一入ひとりの患者さん・ご家族にスタッフがより信頼されるように一層努力していきます。ご支援・ご鞭撻よろしくお願いたします。



看護師長 神代
 介護主任 渡辺
 看護主任 岩崎
 病棟医長 白濱

3階病棟

我々3階病棟は「患者さんに対して、いつ、誰が見ても恥ずかしくない対応をしましょう」という事を目標に日々のお世話にあたらせて頂いております。患者さん及び、ご家族の皆様安心して療養生活を送って頂けるように職員一同、日々の業務に勤しんでおります。病棟内にレクリエーションの写真や創作活動の作品を展示致しております。面会時には是非ご覧下さい。又、お気付きの点が御座いましたらお声掛け下さい。



病棟医長 看護主任 介護主任 看護師長
浅見 金子 元 安河

4階病棟

4階病棟は、看護師11名、介護士14名、病棟事務1名のチームで患者さんのお世話をさせていただいています。「患者さんに楽しい日々を過ごしていただきたい！」これが4階病棟スタッフの「思い」です。まだまだ行き届かぬ事ばかりですが、その「思い」が満足のいくものになるよう日々試行錯誤しています。皆様の大切な方を安心して我々に任せていただけるようこれからも努力してまいります。よろしくお願い致します。



看護主任 看護師長 病棟医長 介護主任
和田 加藤 犬尾 斎藤

5階病棟

こんにちは5階病棟です。5階病棟は、病棟医長西村先生を筆頭に看護師13名、介護士13名、病棟事務1名、食事介助専門パート2名で明るく頑張っています。平均年齢は、おおよそサンサンと輝く33歳です。大変な事も多いのですが、明るい性格のスタッフが多いのか、天然系のスタッフが多いのか和気あいあいと元気に仕事をしています。是非皆様一度遊びにいらして下さい。患者さん、スタッフ共々笑顔のいつもニコニコ病棟目指して頑張ります。



病棟医長 介護主任 看護師長 看護主任
西村 高橋 小川 島田

6階病棟

6階に位置して、各ユニットからの展望は、Aユニットは東京近郊が、Bユニットは富士山が、Cユニットは埼玉中心の高層ビル、又、荒川周辺ののどかな景色が見え、自然と日本の四季を季節に応じて感じる事ができます。病棟の特性としては、個室が多く、患者さん一人ひとりが安心して生活できる空間をより多く提供できるようにしています。ご家族と共に患者さんにその人らしい人生を送って頂く為の介護、看護を実践しています。



病棟医長 看護主任 看護師長 介護主任
斎藤 船本 石本 徳堂

第8回日本認知症ケア学会

介護士 岩崎 公彦

去る10月11日から13日、盛岡にて開催された認知症ケア学会では『今あなたは何を求めていますか？私たちに何ができますか？』という大会テーマが設けられていました。全国から認知症ケアに携わる様々な職種が集い、200以上の演題発表、シンポジウム、国際セミナーなどが開催され、私も病棟スタッフと取り組んだ異食行為についての発表を行いました。業界全体の認知症ケアに対する強い想いを再認識でき、自身も一介護職員として、当院の患者さん、ご家族、スタッフにとって、よりよいケアとは何かを考えさせられる良い機会となりました。この経験を活かし、タテヨコの連携を密にし、最善たりえる介護のあり方を模索していきたいと考えます。

翠会学会

介護士 横山 英樹



和光病院が所属する医療法人翠会グループの「地域精神保健学会」が、九州地区の行橋記念病院主催で行われ、和光病院から11名参加しました（所属する14施設・170余名が参加）。当日大勢の方が聴講していましたので緊張し、うまく話す事が出来ませんでした。この学会に参加させていただき良かった事は、地域や環境が違っても介護に対する思いは共感できる部分が多く、改めて自分の状況を見直す事が出来たことです。又多くの素敵な方々に出会いお話が出来たことも非常に有意義でした。何より発表前の段階でメンバーと何度も打ち合わせ、議論をした事が今後も介護を続ける上で一番重要ではないかと思えます。



家族懇談会

激動する医療情勢や認知症専門病院を取り巻く社会的な状況の変化に対応しながら、和光病院も開設5年目を経過しました。

そのような中、日頃和光病院を利用されている入院患者さんのご家族に和光病院の現状や方針を知っていただき、忌憚のないご意見の交換やご家族同士の交流を図る機会として、このたび第1回家族懇談会を開催しました。

当日10月27日（土）は秋まつりとの同時開催ということもあり、台風直前の雨の中、75名ものご家族にお集まりいただきました。

職員の自己紹介の後、第1部では『自分らしい人生を全うするために和光病院が目指すもの』というテーマにより、斎藤院長が講演を行いました。“認知症”という病気の説明をはじめ、社会的な高齢者医療の現状や、入院長期化・緊急入院など院内の状況の話をし、和光病院は認知症専門病院と

していかに精神医学的な治療を提供し、利用を必要とする皆さんからのニーズに添えていけるかを示した講演となりました。

第2部では各病棟で師長・主任とテーブルを囲んで、お弁当を召し上がったいただきながらの懇談会を行い、日頃なかなかお話の出来ないご家族同士も、職員と共に今までの介護の苦労や病院での生活について会話が弾んだようでした。

参加されたご家族の皆さんからも、「病院全体、和光病院の置かれている状況がよくわかった」「病院の方針が理解できた」「家族間の交流がもてた」など、大変ご好評をいただきました。

今後もこのようなご家族との交流の機会を持ちながら、共により良い和光病院を目指して行きたいと思えます。



秋まつり

秋まつり実行委員長

作業療法士 持木 由布子

「和光 中川家の秋」

秋の風が心地よく感じられる10月下旬に、和光病院では初めての秋の行事、「和光病院秋まつり」を行いました。当日は、台風、大雨に見舞われる中、大勢のご家族にご来院いただき、ありがとうございました。今回の秋まつりは、「人生の収穫を祝おう」をテーマに、患者さんとご家族の皆様が、一緒に見て、触れて、遊んで、食べて、と、ゆったりと楽しい時間を過ごしていただきたく、1階では昭和30年代の生活の再現、流行歌や俳優、物価、生活用品の展示、ゲームコーナー、やきいも屋、駄菓子屋の出店、また各病棟ではちんどんの仮装をした職員が、秋まつりの宣伝をしながら病棟内を

練り歩きました。なかでも等身大に再現した家、その名も「中川平吉（仮名）」家は、そのほとんどをダンボールで作り、部屋の内部には当時の生活用品の実物を借りてくるなど、実際に当時の生活の様子が見えるように作りました。一つでも、患者さんとご家族の皆様の方に響くものがあるかなら幸いです。翌日は、悔しなくなるほどの、台風一過の青空が広がりました。次回のおまつりでは、お天気になることを祈りつつ、工夫を凝らした内容を検討していきたくと考えていますので、どうぞご期待ください。



防災訓練

11月22日に消防署立ち会いのもと、火事・災害時の情報伝達、消火、救護、避難・誘導等の総合的訓練を行いました。中でも病院が大規模震災に被災した場合を想定した訓練、すなわち入院患者さんの避難・誘導訓練に力を入れ、避難・誘導に要するタイムトライアルも行いました。今回の訓練は全職員参加型の初めての訓練で、さらに「訓練開始」、「火元確認」、「訓練終了」等の全館放送のもとで行われた初めての訓練でもありました。訓練開始から終了までをビデオに撮影しました。分析の上、以後の参考として、将来的にはマニュアル作成の資としたいと考えております。



あなたの声を

お聞かせください

1階外来と7階多目的ホールの本棚の上に「ご意見箱」が置いてあるのをご存知でしょうか？これは、来院された皆様方から、お気づきの点、ご意見ご要望などをお聞かせ頂くものです。もちろん、直接お話をくださると有難いのですが、「誰に話してよいか解らない」「少し言いにくい」「土日、夜間しか来院できず、ゆっくり話せない」など諸々おありかと思えます。どうぞお気軽にご利用下さい。

また、各階に担当職員の顔写真と名前を掲示いたしました。私たち職員が責任を自覚し業務に取り組む、また皆様との気持ちの通い合う心地よいコミュニケーションを願うものです。どうかこれらの趣旨をご理解いただき、職員の個人情報にご配慮の上ご利用下さいますようお願いいたします。



食べる楽しみ

生活のひとつである「お食事」。患者さんに楽しみ、喜びを感じていただけるよう、栄養科では様々な工夫をし、日々心をこめてお作りしています。毎日三度の食事です。単調にならぬよう、季節感を感じていただけるように旬の食材を取り入れたりし、行事食をお出ししています。例えば大晦日には年越しそば、お正月にはお雑煮、おせち料理などを用意し、食事を通して、五感で楽しんでいただけるようにしています。また、患者さんに馴染みのある食材や料理も提供するようにしています。

昼食の時間には病棟に伺い、患者さんの召し上がっている様子を見させていただきます。直接患者さんの声や反応、又、病棟スタッフの方々の意見を頂戴し、一人ひとりに合ったお食事作りに生かしています。医師、看護師、介護士の方々とカンファレンスも行っています。「口から食べる」こと



を患者さんに楽しんでいただきたいと、多くの方々のご協力をいただいております。

また、食事レクリエーション（食レク）も行っています。病棟のアクティビティー委員の方といろんな案を出し合い、患者さんと共に料理の作業を楽しんでいます。食レクを行っているときの患者さんの真剣な姿、召し上がっているときの笑顔は本当に輝いており、私たちも勇気付けられます。

食事というのは生活に欠かせないもので、一番の楽しみといっても過言ではないかも知れませんが、これからもその楽しみを得ていただけるよう、努力を重ねて参ります。

栄養科 小坂 由衣

第三者評価委員会

和光病院に第三者評価委員会を設置することになりました。この委員会は、病院とは利害関係のない、介護、看護、法律、医療倫理等の専門家や介護経験を持つ一般市民の委員によって構成され、病院の医療やケアについて独立した立場から評価し、改善の必要があればそれを勧告するという機能を持ちます。委員は、定期的に病棟内を視察し、ケアの質を評価します。病院に対して、直接苦情をおっしゃりにくいご家族のご意見を受け付け、それを代弁して病院に意見を具申するシステムも備える予定です。全委員が確定し次第、皆様に委員の名前と機能を改めてご案内申し上げます。



重度認知症デイケア及び 地域包括支援センター について

従来、和光病院には、入院、外来診療の他に、医療保険による重度認知症デイケア、介護保険による和光北地域包括支援センター、居宅介護事業所という地域ケアを担う部門があり、それぞれに重要な役割を担って参りました。しかしながら現在、病院経営は極めて厳しい状況にあり、これらの部門を支え続けることが困難となりつつあります。広く事業を展開するより、持てる資源を病棟、外来診療という病院本来の事業に集約して、経営の安定とケアの質の向上を図るべく、上記三部門のうち、重度認知症デイケアと地域包括支援センター事業を今年度末で閉鎖する決断をいたしました。





「和光病院だより 2号」 発行日 2008/1/10 編集・発行 和光病院広報委員会
〒351-0111 埼玉県和光市新倉5-19-7 TEL 048-450-3311・FAX 048-466-0811
URL <http://www.wako-hos.jp> E-mail info@wako-hos.jp

今年の干支は「ねずみ」

カピバラは、現生種最大の齧歯類。カピバラ科唯一の種。南アメリカ東部アマゾン川流域を中心とした、温暖な水辺に生息する。名前は、グアラニー語の「Kapiyva」（草原の主）に因み、それがスペイン語に転訛し「capibara」と呼ばれるようになった。

和名
オニテンジクネズミ
(鬼天竺鼠)。



明けましておめでとうございます。
平成20年もいよいよスタートしました。
今年の寒さは殊更厳しいようです。
この度「和光病院だより」第2号が出来上がりました。本誌を見ますと、半年あまりの間にいろいろなことがあるものだなあ、と実感します。患者さんの絵、ご家族の方々の声、病院の行事、表紙の写真など、読者の皆さんのアイディアと広報委員の努力で出来上がりました。良い広報誌に育つことを願っております。

